

タカラバイオ株式会社

2020年3月期第2四半期決算説明会 主要質疑応答内容

2019年11月14日（木）

ロイヤルパークホテル（東京都中央区）

回答者 代表取締役社長 仲尾 功一、代表取締役副社長 松崎 修一郎

【バイオ産業支援関連】

研究用試薬の地域別の状況と対策は？

- 米国では、これまで業績を牽引してきた NGS(次世代シーケンサー)関連の製品の成長が鈍りつつあり、試薬販売全体に影響を与えている。競争環境が厳しくなっているのが原因だが、主要メーカーの NGS 装置販売が一巡したのも一因と推測している。成長速度は鈍化するが、売上増は続くと見ている。引き続き当社としては、NGS の各種アプリケーションに対応した新製品を開発し、さらなる成長を図りたい。
- 日本では、上期に消費税増税の影響が多少あったが、通期では均される。PCR の産業分野（アプライドフィールド）が好調だ。有害な微生物やウイルスの検査にあたり、PCR を公定法に取り入れる動きに上手く連動できている。PCR を用いる検査システムを検討している食品会社や検査会社向けに、カスタマイズした製品の販売も好調だ。
- 中国市場は、引き続き好調だ。従来から好調の PCR 製品に加えて、今後は、欧米のように NGS 関連の製品が伸びると見込んでいるが、欧米とは事情が異なり、中国製のシーケンサー（装置）を中心に市場がつけられるのではないかと予想している。中国市場に合った製品開発をしていきたい。
- 欧州は、基本的に米国と同じ課題を抱えていると思うが、R&D の市況はさらに悪いかもしれない。当社製品では、NGS や細胞や培地などの製品を強化していく。
- どの地域でもそうだが、地域（ローカル）の状況に応じた製品開発・販売活動と、世界規模（グローバル）のトレンドに沿った活動を並行して進める “グローカル” な対応をとっていきたい。

米中関税の問題に関連して、製品製造の拠点を一部変更するという説明があったが、具体的にはどのようなものか？拠点変更でコストアップとならないか？

- 研究用試薬の大半は中国・大連の拠点で製造しているので、米国向けは多少影響を受ける。
- 一極集中を避けるためにも、製造の一部を日本やグループのその他の拠点に移す。既に準備が整いつつあり、来期には関税の影響を受けない体制が整う予定だ。これにともなって製造コストがアップするようなことは無いとみている。

【遺伝子医療関連】

C-REV（膵臓がん）について欧州臨床腫瘍学会で中間データを発表したようだが、反響は？

- 9月に欧州臨床腫瘍学会（ESMO）で第I相臨床試験の中間データを発表した。まずまずの評判だったと報告を受けている。これを材料に、海外でのC-REVの提携交渉を進めたい。

C-REV（メラノーマ）の開発は、どのようになるのか？

- メラノーマに関しては、既に公表したように、国内での製造販売承認申請を取り下げたところだ。米国で一部、医師主導試験を継続しているが、今後は、原則、国内開発は行わず、膵臓がん開発に注力する予定だ。
- 一方で、国内の臨床現場の先生方も含め、多方面から開発のお話をいただいております、医療ニーズは感じている。
- 当社の開発リソースや競合品・市場の状況なども変化しているので、このあたりを総合的に検討して判断したい。

NY-ESO-1 siTCR（滑膜肉腫）は、そろそろ製造販売承認申請を行うのではないかと

これに伴い、提携先企業からマイルストーン収入を得る見込みは？

- 開発状況は提携先との約束もあり、説明は控えさせていただきたい。早期に申請ができるように関係先と緊密に調整してやっていきたい。
- 提携時にニュースリリースでお伝えしたように、マイルストーンは設定されており、達成時には一時金を受領することになる。個別の条件については、こちらも公表を控えている。ご了解願いたい。

【研究開発】

遺伝子医療の新しいパイプライン開発の予定は？

- 遺伝子導入細胞を使う治療薬開発を中心に進めている。現在は、新しい構造を持つ次世代のCAR-Tの開発を急いでいる。具体的にはシグナル伝達ドメインにJAK/STATやGITRを用いた新規構造について、外部機関と共同研究を行っている。現在は、細胞や動物を使った試験中だが、早期にヒトへの投与段階、臨床開発に入りたいと考えている。

以上